



Support Our Kids New Zealand Program 2023

Photo Report



December 2023
Support Our Kids Committee



New Zealand Program 2023 Overview

プログラム概要

事前研修

2019年5月19日(日)	第1回事前研修	
2019年6月23日(日)	第2回事前研修	
2019年9月8日(日)	リユニオン事前研修	
2019年11月16日(土)	リユニオン前日研修	
2019年11月17日(日)	リユニオン	渡航延期
2023年11月4(土)5日(日)	第3回事前研修	
2023年11月17日(金)	出発式	※パンデミックの影響により、3年8ヶ月越しに渡航が実現しました。



ニュージーランド渡航 2023年11月17日(金)～11月25日(土)

滞在先	クライストチャーチ、ウェリントン、オークランド
参加者	宮城・福島県出身の大学生6名
実施プログラム	日本ニュージーランド経済人会議(JNZBC)参加 311震災プレゼンテーション 駐ニュージーランド日本国大使表敬訪問 クライストチャーチ市長表敬訪問、 国会議事堂見学、現地企業訪問、オークランド大学生と交流、 オールブラックス体験、テパパ・トンガレワ博物館訪問、 マオリ文化体験

プログラム協力	ニュージーランド大使館、日本ニュージーランド経済人会議、 タリーズコーヒージャパン株式会社、 North Asia Centre of Asia-Pacific Excellence(CAPE)、 ニュージーランド航空、PBees、サッポロ製麺、株式会社アークリンク、 カナルカフェ、株式会社アイ・コーポレーション、 イアン・ケネディ氏、節子・ケネディ氏、ミア・エヴァンズ氏、 その他、たくさんの方にご協力いただいております。
----------------	---

訪問都市について

今回のプログラムは、ニュージーランドを代表する3都市を訪問。

① クライストチャーチ (カンタベリー地方)

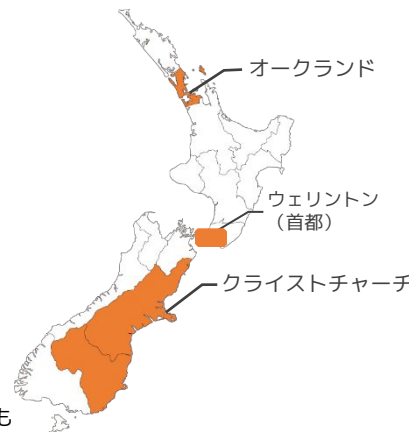
南島最大の都市。南島の文化、経済の中心地であるこの街には、国内各地からの空の便や鉄道、長距離バスが運行されており、名実ともに南島のゲートウェイとなっている。今年の日本ニュージーランド経済人会議は、このクライストチャーチで開催。

② ウェリントン (ウェリントン地方)

ニュージーランドの首都。人口規模はオークランドに次いで2番目。ニュージーランドの政治の中心地であり、ニュージーランド議会と全ての行政機関の本庁舎が置かれている。

③ オークランド (オークランド地方)

ニュージーランド最大の都市。食、音楽、ファッションなどエンターテインメントの充実ぶりも国内最大規模であり、最新情報の発信地。



Support Our Kids



New Zealand Program 2023 Overview

現地スケジュール

11月	プログラム内容		滞在先	プログラム詳細 SNS投稿
	午前	午後		
17 (金)	出発式	18:30 出国 (NZ90便/成田)	機内泊	
18 (土)	オークランド到着 国内線乗換え	クライストチャーチ到着	クライストチャーチ	
19 (日)	研修	日本ニュージーランド経済人会議 (JNZBC) ※ 歓迎レセプション参加	クライストチャーチ	
20 (月)	JNZBC会議 トークセッション参加	JNZBC会議 トークセッション参加/ JNZBC ディナー参加 @ Art Gallery	クライストチャーチ	
21 (火)	JNZBC会議 トークセッション参加	JNZBC 振り返りセッション	クライストチャーチ	
22 (水)	クライストチャーチ市長 表敬訪問 タパ布ワークショップ	H.I.S NZ訪問 (観光業意見交換会) ウェリントンへ移動	ウェリントン	
23 (木)	駐ニュージーランド日本大使伊藤氏表敬訪問 国会議事堂見学 ニュージーランド テパパ・トンガレワ博物館訪問		ウェリントン	
24 (金)	オークランドへ移動	オールブラックス体験 オークランド大学交流会	オークランド	
25 (土)	9:55 出国 (NZ99便)	16:50 帰国 (成田) 解散式		





事前研修・出発式

2023年11月4日(土)・5日(日)に実施された環境省共催のエコイベントGTFグリーンチャレンジデーin 新宿御苑にて、事前研修の一環として、Support Our Kidsブースの企画・運営をしました。ブースでは、日本ニュージーランド経済人会議のテーマである、再生可能エネルギー・林業・漁業・観光について事前学習した内容の展示や環境に対するアンケート、PBees様にご協力いただきニュージーランドエコ商品の販売、Support Our Kids OBの山城さんが作った宮城の新米などの販売もさせていただきました。

また11月14日(火)には、福島処理水や日本の再生可能エネルギーの取り組みについて、環境省の方にオンラインで勉強会を実施いただきました。



GTFグリーンチャレンジデー



沢山の支援者の皆様にもお越しいただきました！



2023年11月17日(金)、駐日ニュージーランド大使館にて、出発式を執り行いました。ニュージーランド大使館 臨時代理大使ギャレス・ピジョン様・エグゼクティブオフィサー 宮崎様、タリーズコーヒージャパン株式会社 取締役副社長 丸橋様・小林様にもご出席頂き、渡航前に激励頂きました。参加者6名それぞれの目標とグループ目標も定めて出発いたしました。

出発式



Support Our Kids

現地での様子① 日本ニュージーランド経済人会議

Support Our Kidsの名誉会長であるイアン・ケネディ氏がニュージーランド側委員長を務める「日本ニュージーランド経済委員会」と連携し、毎年11月に開催されている国際会議「日本ニュージーランド経済人会議」に参加。両国を代表するビジネスパーソンが一堂に集い、両国の発展やアフターコロナの経済・文化をどのようにより良いものにしていくかなどについて討論を広げ、意思決定がなされる大変貴重な場所に、東北の若者代表として特別参加させていただきました。



歓迎レセプション カクテルレセプション



ハイミッシュ・クーパー駐日ニュージーランド大使や会議事務局の皆様と



リアン・ダルジール前クライストチャーチ市長にも防災巾着をお渡し出来ました！

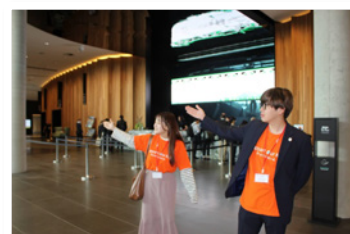


講演・トークセッション

Intergenerational Actionをテーマに、再生可能エネルギー、林業、漁業、観光、イノベーションとデザインについて、貴重な講演を頂きました。



観光や防災×VRについて質問も出来ました！



運営のお手伝いもさせて頂きました



Support Our Kids

現地での様子② クライストチャーチ市内研修



クライストチャーチ市長 表敬訪問

フィル・メイジャー市長と復興について対談のお時間を頂きました。英語で震災プレゼンテーションも実施しました。



素敵な
お土産も
頂きました!



マオリ文化体験

オセアニアの伝統的なタパ布作りを体験しました。



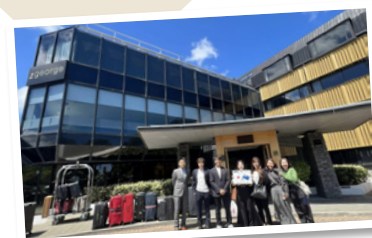
現地企業訪問

H.I.S NZに訪問させて頂き、ニュージーランドの観光業や現地で働くことについてお話を伺いました。

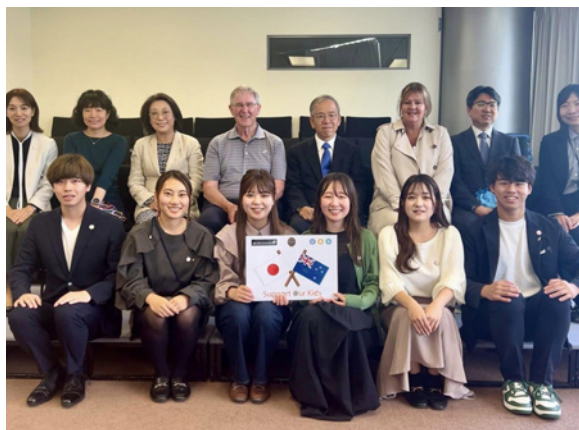


支援者訪問

虎ノ門実業会館グループ 5つ星ホテル the georgelに訪問させていただきました。



現地での様子③ ウェリントン市内研修



駐ニュージーランド 日本国大使館表敬訪問

伊藤大使と一等書記官の高田氏から、ニュージーランドと日本の関係について特別講義をいただきました。震災プレゼンテーションも実施しました。



テパパ・トンガレワ博物館 訪問

マオリの歴史や文化を詳しく学ぶことが出来ました。



国会議事堂訪問

国会議事堂の見学ツアー参加。



ケネディご夫妻ご自宅訪問

ケネディ・節子氏がご馳走を振舞って下さいました。ニュージーランドに留学中のSOK OGも会いに来てくれました。





現地での様子④ オークランド市内研修

オールブラックス体験

ニュージーランドの国技であるラグビーの体験型施設を訪問。



オークランド大学生交流会 フェアウェルパーティ

会員制のthe northern clubで、日本語を学ぶオークランド大学の学生達と交流。

交流会の最後には、お世話になったCAPEのローラ氏とイアンご夫妻に、感謝の気持ちを伝えました。松居総領事や、沢山の支援者の皆さんも参加してくださいました。



ジュディスコリンズ司法長官
防衛大臣にもご参加いただきました！



Support Our Kids



解散式

Tully's coffee様のご協力により、東京駅ヤエチカ店にて解散式を執り行いました。

日時 2023年11月25日（土）19時半～
場所 Tully's coffee東京駅ヤエチカ店
内容 参加者感想、来賓コメント



福島県出身 廣田 夏楠

この研修を通して得たものは、新しい価値観です。特に、3年前では経験できなかった「日本ニュージーランド経済人会議」に参加し、各業界で働いている方々にお話をきけたことは、私の中で大きな財産となりました。私は個別でニュージーランドの水産業で働いている方に、福島の処理水放出について質問をしました。他国から見た時に、実際にどんなことを感じているのか、そしてニュージーランドでどのように報道をされているのか、現地の方々の声を聞いて良かったです。躊躇なく話しかけることは勇気の要ることでしたが、経済人会議の方々と震災のこと、事業のことなどについて話すことで、自分も社会の一員になれたような気がしました。

私は、いま大学3年生で就職活動をしています。日本では大学進学をして就職し同じ場所で一生働くというフォーマルに縛られていました。しかしニュージーランドの方は、一度就職をしてから大学に入り直して学びを深めたり、キャリアを積むために多くの職種を経験したり、常に変化を与えて自身を成長させる目標を持っていました。そのような一人ひとりの生き方や多様性を受け入れてくれるニュージーランドの環境に、非常に魅力を感じました。私は性格上、完璧にやらなければならないと思って悩んでしまうこともありますが、NZで多くの人と関わり、その軸を変えることができました。ケネディご夫妻の「間違ってもいい。あなた達は何でもできる。将来の希望だ。」という肯定の言葉は、本当に嬉しかったのを覚えています。

また、震災のプレゼンテーションでは、地元福島原発事故についてスピーチしました。私自身、地元から離れて生活をしているため、復興の意識が薄れてきていましたが、改めて考えさせられる機会となりました。メンバーみんなのそれぞれの震災経験を聞いて、すごく胸が苦しくなりました。大人になった今こそ、“復興アンバサダー”として自分に何ができるのかを、将来にかけて考えていきたいと強く思いました。

そして私がこの渡航を通して感じたことは、ニュージーランドの方々は日本に対して、とてもよく思ってくれていて、普段から日本の歴史や文化などに触れているということです。日本からニュージーランドに対しての親睦の意識をもう少し高め、多くの人にニュージーランドを知ってほしいと思いました。

最後に、イアンさんのお家で食事をした際には、SOKのNZ OBのももさんと会うことができました。SOKがきっかけで人生の大きな選択をし、留学へチャレンジをしている姿はとても輝いていました。更に、今までOBの方々が繋いできてくれたことを、私達も未来に繋いでいきたいと強く実感しました。8日間という短い中でしたが、素晴らしいメンバーでこんなにも濃い充実したスケジュールを過ごせたことは、大きな自信になりました。本当に多く人の想いが詰まった、特別な渡航だったのだと実感しました。たくさんの愛に触れたので、自分自身もいつかは与える側になりたいと思います。ありがとうございました。





帰国後レポート

福島県出身 伊藤優理

三年前から掲げていた「防災巾着を配りきる」という目標を達成することができました。一時はコロナの影響で渡航を諦めかけたこともありましたが、支援者の方をはじめ事務局の皆さんのご尽力のおかげで無事にニュージーランドに行けたことに感謝しています。特に、経済人会議では普段は絶対に会うことのできないような各企業のトップの方や領事など、影響力のある方々に防災巾着を渡すことができ、防災に対する意識の大切さを、直接顔を合わせて話すことができました。

経済人会議のカンファレンスでは、はじめは全くついていけず、自分が今までいかに狭いコミュニティ、そして狭い視野で生きてきたのかを思い知らされました。それでも、SOKに興味を持って話しかけてくださる方がたくさんいて、心から私たちを受け入れてくださっているという雰囲気から、会議の一参加者として、それぞれの議題に自分の意見を持つことができました。最終日のイノベーションデザインの議題では、メンバーが先陣を切って発言してくれたおかげもあり、自分の意見と質問を述べることができました。とても緊張しましたが、イアンさんをはじめたくさんの方から「いい質問だった」と激励いただいたおかげで自信に繋がりました。ほんのちょっとした出来事ですが、今まで自分でも気づけなかった、自分の積極性や少しの勇気に気付くことが出来た大きな経験となりました。

今回の研修で出会った大人達は、みんなそれぞれ自分のキャリアに対し誇りを持って楽しそうに仕事をし、それでいてこれからは見据えて高い志を持っている方々ばかりで、とても刺激を受けました。そういった大人たちの頑張りや、直接的にも間接的にも、私たちの生活を支えてくれているということをもっと実感し、各方面で活躍している皆さんは、全員が私にとってのロールモデルで、そんなカッコいい大人になりたいと思いました。

また、今回一緒に研修に参加したメンバーとは、出会って四年目にして今まで知らなかった一面も知ることができ、より深い関係になれました。今までの私は、なんでも完璧にできない自分に苦しむことが多くありましたが、信頼できるメンバーとの関係を手に入れることができたことで、未完成な自分を受け入れようと思えることができました。今回の研修での人との出会いが一番のお土産で、何にも代えられない一生の財産になりました。

私の学年は、節目ごとに震災やコロナなどがぶつかる魔の平成十六年生まれと言われることがあります。しかし、これらの経験を乗り越えたからこそ得ることができた、未来を自分たちの手でよりよくしていくとする気持ちを、この研修はより一層強くしてくれたように思います。

研修期間、毎日が本当に楽しくて濃い時間を過ごし、のびのびと学ぶことができました。また絶対にニュージーランドに帰りたいと心から感じたと同時に、もっといろいろな世界を見たいと強く感じました。東北出身の若者として、そしてSOKの一員として、これからも社会に貢献していく立場として積極的に活動していきたいです。

宮城県出身 長尾登

■ 震災での経験を伝えることの重要性を再認識した

実際に震災を経験したことは、嫌な記憶ではあるけど、また同じような災害が起こった時のために、多くの人に、震災を経験したからこそその対応や対策を教えることが大切だと思う。このことを、震災プレゼンで、英語でも伝えられることが、今回の研修で証明することができ、日本だけでなく海外の方にも発信することへの自信に繋がった。

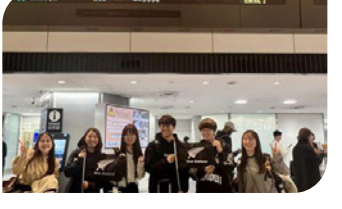
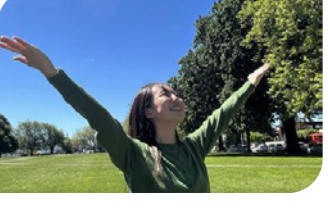
■ 人に感動を与える人間になりたい

人前で泣くこと、心からの感動で泣くことは、中々無いことだと感じる。ニュージーランド研修では、多くの方の温かさや優しさで感動して、何度も泣いてしまった。自分も人に感動を与え、心のそこから喜んでもらい、時にはうれしすぎて泣いてもらえるような人間になりたいと感じた。これから多くの事に挑戦し、何が人に感動を与えられるかを考えていきたい。

■ 自分が進むべき道が開けた

自分は絶対にニュージーランドに戻ってくると決めた。そのために、英語力を伸ばす、実際にニュージーランドに来たときの仕事を見つける。今回の研修で得た人脈を有効に活用し、さらに日本海外関係無く友達を作りたい。多くの場所を訪れたい。そして、子どもには夢を、若者には志を、大人には誇りを与えられる人間になります。絶対に。





Support Our Kids

